



## 第 1703 回例会

平成 24 年 5 月 14 日 (月)

12:30~ 海南商工会議所 4F  
会員卓話 萩野 昭裕君 田岡 郁敏君

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「我らの生業」
3. ビジター紹介  
ガバナー補佐 塩路 良一様(御坊 RC)
3. 出席報告  
会員総数 60 名 出席者数 38 名  
出席率 63.33% 前回修正出席率 65.00%

4. 会長スピーチ  
会長 田村 健治 君



本日は多くの報告事項あるため、いつもの拙い話はお休みさせていただきます。  
まず最初に、5月4日から7日までの4日間、タイ国バンコクで開催された国際ロータリーワークショップに当クラブから7名参加してきました。まず驚かされたのは、本大会会場の広さでした。ここ数年、世界的にもロータリアンの人数は減少しているそうですが、参加国は年々増え続け、今年度も100カ国以上の国が恒例行事として、オリンピックの様に国旗と共に紹介されました。その後“ふれあい広場”に行き、バナナ交換を行いました。先週の夜間例会は、新入会員歓迎会だったにもかかわらず外遊のため欠席となり、失礼いたしました。

5月9日、定例理事会で、賛助会員制度（以前ゴルド会員と呼んでいた）創設について、長い時間を割いて意見交換を行いましたが、結論を出すには至りませんでした。

昨日の日曜日、りんくうタウンのホテルで 2640 地区のガバナーが召集したクラブ会長・幹事会議に山畠幹事と共に出席しました。議題は 1 点に絞られ、和歌山北 RC から出された林エレクト時代にクラブが立替えた事務所費用の返済要求につき、それをどうするかの議論でした。米田サイド即ち現財務委員会の主張

は、法的な責務はないと拒否しました。それに対し、久々に顔を見せられた中島治一郎 PG は、G は G エレクトが事務所を開設した時点で費用を前払いするのが 30 年來の習慣であり、それをしなかつたのは違法であり、当然返済すべきと主張されました。要求金額は合計 680 万円でしたが、P E T 等の会議費用は認められ、既に 120 万円は返済されていましたので、残る 560 万円をどうするかでした。大澤 G は、これを今年度予算の中の予備費から捻出できれば何とかなるのだが、予備費は 300 万円余りしかないので、どうするかクラブの意見を聞きたい。後々返答用紙を送るから、各クラブの考えをまとめて欲しいとの事でした。

5. 幹事報告 幹事 山畠 弥生 君

○ポリオプラス寄付の御礼

地区協議会において、ポリオプラス寄付のバッヂを購入いただき有難うございました。

○第 11 回日韓親善会議のご案内

開催日時：2012 年 8 月 31 日 (金) ~ 9 月 1 日 (土)  
開催場所：グランド・プリンスホテル新高輪  
登録料：22,000 円

当日は 2012-13 年度国際ロータリー会長の中田作次様、JICA 特別顧問、第 8 代国連難民高等弁務官の緒方貞子様も出席されます。参加希望の方は、申し出ください。

6. 委員会報告

○国際奉仕委員会

委員長 桑添 剛 君

5 月 4 日から 7 日まで、タイのバンコクで開催された RI の国際大会に参加しました。当クラブからは、田村会長はじめ、宇恵君、小椋君、中西君、寺下君、重光君と私の 7 名が参加しました。

特に会場の広さに驚き、本会議、各国紹介など感動しました。また、友愛の広場でのバナー交換も行ってきました。



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ②好意と友情を深められるか
- ③みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：田村 健治 幹事：山畠 弥生 SAA：岩井 克次



## 7. 会員卓話

○荻野 昭裕君（浄国寺 住職）



去年、2011年は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人の750回大遠忌法要が営まれました。45万人以上のご参拝をいただきました。さて、私の所属する本山は、いわゆる西本願寺ですが、皆さんはあまりご存じないと思いますのでそのグループを紹介しましょう。本願寺と西本願寺、あるいは東本願寺、真宗とは、いったいどんな関係にあるのでしょうか。知っているようで知らない。この関係からお話ししましょう。文禄元年（1592）本願寺第11世顕如が没し、長男教如が本願寺を継承します。しかし翌年、母如春尼が、突如三男准如に本願寺を譲ると記された「顕如譲状」を豊臣秀吉に提出し、教如の継職に疑義を訴えます。秀吉は、教如ら関係者を大阪城に呼び出し詮議し、教如が10年継職し、その後准如が継職するという裁定を下しました。その際同道した家臣が裁定に反発。それに秀吉は激怒し、教如を即座に隠居させ、三男准如へ本願寺継職を命じました。秀吉没後、政権確立過程の徳川/家康は隠居の教如に密かに接触し、慶長7年（1602）教如に寺地を寄進し本願寺を別立させます。ここに本来ひとつの本願寺は、教団ともども二つに分派しました。以後所在位置より、通称西本願寺（七条堀川）と東本願寺（七条烏丸）が成立するのです。浄土真宗は中世以来、一向宗（衆）無碍光宗などと称されていました。江戸時代の宗門改などの公式文章には「一向宗」と記される場合が多かったようです。安永3年（1774）真宗各派が宗名を「浄土真宗」とするよう幕府に願い出ましたが、浄土宗増上寺の反対にあい実現しませんでした。明治5年（1872）政府は「真宗一」という宗名を公許し、そして、現在に至り、西本願寺は正式名称「浄土真宗本願寺派本願寺」としています。そして真宗本廟（真宗大谷派、東本願寺）、真宗高田派、真宗興正派など、現在にまで浄土真宗に関わる派は、二十派程度あります。それらの寺院数は約二万余か寺で、過半は西本願寺に所属しています。

西本願寺は元和3年（1617）の火災以後、大きな災害を受けることなく、現在までに至ったこともあります。



左 = 御影堂 右 = 総御堂（阿弥陀堂）

多くの国宝・重文他の文化遺産を伝え、さらに平成6年（1994）には世界文化遺産にも登録されました。さて、仏教のなかで私が真の教えと信じる浄土真宗は、親鸞聖人（1173年～1263年）が明らかにして下さいました。その教えは、どんな人であっても、私にかけられた阿弥陀如来の絶大なる智慧と慈悲を信じ、如来の名前である南無阿弥陀仏を称える身になるならば、この世にあるときは如来の智慧の光に照らされて我が身を反省しながら社会のために働き、命が終れば仏となることのできる教えです。この教えはいろいろな仏教の宗派のなかで「他力の教え」と言われています。「他力」は「自力」に対しますが、意味するところは、こちらから仏になることを求めて修行していく方向ではなく、阿弥陀如来の方から願って、私を仏にして下さる教えです。また、どの教えには、悪人こそが如来の救いの対象であるとする「悪人正機」の思想があります。この「悪人」とは法律や道徳に反する一般的な意味での悪人を意味するものではなく、自分の力ではさとりを開くことができない醜い心を持った人間であると自覚した人を「悪人」として表したものです。実際に私自身を仏教の教えに照らして省みると、悪人以外のなにものでもない自分に気づかざるをえません。

阿弥陀如来は、生きとし生けるものすべてを仏と同じさとりに至らせたいと願われています。私たちは、そうした如来からの大きな願いにつつまれて、やがてさとりにいたる身であることをよろこび、自分だけの殻に閉じこもることなく、同じく如来の教えのもとに生きるもの同士が手をたずさえて、お念佛を称えつつ、力強く悔いのない人生を生きていきたいと思います。

（古寺巡礼京都 西本願寺）参照

○田岡 郁敏君（田岡歯科医院 院長）



歯の治療におけるインプラントについてお話しします。通常歯が抜けてしまった場合、その部位の両側の歯を削除してブリッジをするまたは入れ歯を入れるというのが一般的ですが、どうしても健康な歯を削ったり、入れ歯の違和感がありましたりと、特に年齢が若い患者さんほど抵抗があります。そこでインプラントの治療法が考案され、エビデンスの積み重ねで進歩してきています。

インプラントはおもにチタン合金が使われています。その表面性状はブラスト処理を行い骨との接触面積を増加させることで骨内の維持力をより強固にしています。また、ハイドロキシアバタイトをコーティングして維持力を出そうとしている物もあります。

検査、診断 ステントによるCT撮影

セージカルガイドを制



作しドリルの方向深さを確実にドリリングする。  
手術部位以外には触れないようにしてインプラン  
ト体（フィックスチャーチ）を埋入する。  
一次手術と二次手術をする二回法と一回法、即時荷  
重と様々な方法があり状態により選択されます。  
その後アバットメントと言われる土台をたて、その  
上にさらに補綴物をいれます。

今までのような金属のものから、金属の上に瀬戸物  
を被せたもの、最近ではオールセラミックやジルコニア  
と言ふものまで多くの選択肢があります。

これから歯科治療は自分の健康な歯を削らない  
という観点からインプラントが大きな役割を果たし  
ていくと思います。ただ、最近よくマスコミにも取り  
上げられるように保険のきかない自費診療だけに安  
易に始めたり、値段を必要以上に安くして（色々な手  
順を省くなど）多くの患者を集めようとして、問題が  
あるのも事実です。また、全ての人に行えるわけでは  
ありません。

## 8. 閉会点鐘

### 次回例会

第 1701 回例会 平成 24 年 4 月 23 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

ゲスト卓話 三井住友銀行 和歌山法人営業部長  
池田 敏男 様



### ニコニコ・BOX

桑添 剛君 バンコク国際大会に参加しました。  
荻野 昭裕君 卓話させていただきます。  
田岡 郁敏君 本日、よろしくお願ひします。  
奥村 匡敏君 先日、七人目の孫が生まれました。  
塙路 良一様 お世話になります。  
(御坊 RC)



## 国際ロータリー ニュース

### スリランカの離島で

### 母子を支える保健キャンプを実施

スリランカの離島（デルフト島）に暮らす母や子どもに医療を提供するために、コロンボ（スリランカ）とニュータウン（米国ペンシルバニア州）のロータリアンが力を合わせ、ロータリー財団のマッチング・グラントを利用した「母子の保健キャンプ」を実施しました。

コロンボのロータリアン 4 名、ロータークリーク・アクトー 1 名、ロータリー入会に関心を持つ 1 名から成るチームは、首都コロンボから車で 16 時間かけて本島北端の街ジャフナに向かい、そこから船でデルフト島に移動しました。現地到着後、チームはスリランカ海軍の援

助を受けて臨時の医療施設

（薬局、患者登録所、診察所）を設置しました。

施設が開いて間もなく、ボランティアの医師による診察を受けにきた子どもたち、幼児を連れた母親、出産を控えた女性たちで登録所は一杯になりました。ロータリアン 1 名とロータークリーク・アクトーがタミル語を話す患者のために通訳を行い、薬剤の準備を手伝いました。また、ボランティアで参加した薬剤師による監督の下、ビタミン剤、葉酸、鉄錠剤、虫下し、そのほかの処方箋が訪問者に配されました。

正午を迎えるまでに、500 人を超える島民に対応し、3,000 万米ドルに相当する薬剤が提供されたほか、出産前と分娩後の医療ケアのために、さらに 1,000 万相当の薬品が島で唯一の公立診療所に寄贈されました。30 歳以上の訪問者については眼科検診も行われ、200 個の老眼鏡が無料で提供されました。

### 元少年兵が基調講演を行った

### ロータリー世界平和シンポジウム



5 月 3 日 (木)、バンコクで開かれた 2012 年ロータリー世界平和シンポジウムの開会本会議にて、スーザン出身の元少年兵、エマニュエル・ジャルさんが基調講演を行いました。現在は、ヒップホップ・アーチストとして活動するかたわら、人権擁護団体のアムネスティー・インターナショナルやオックスファムのスポーツバーンとして、また、セーブ・ザ・チルドレン、ユニセフ、国連世界食糧計画などの代表としても活躍しています。シンポジウム講演の冒頭、言葉で話を始める代わりに自作の歌「We Want Peace」を歌って、会場を盛り上げ、平和への思いを表現しました。

講演では、ジャルさん自身にとっての平和、少年兵として目にした残虐行為の数々、そしてスーザンの激しい内戦を逃れる際に経験した恐怖が語られました。

「世界各地で平和の解釈は異なるでしょう。家を出てから再び安全に帰宅できるという“平和”、お腹いっぱい食べられるという“平和”などさまざまですが、私にとって平和は、すべての人々に正義、平等、自由が与えられることです」

### 内戦を逃れて

ジャルさんは、母親をはじめ家族のほとんどを内戦で亡くし、9 歳の時にスーザン人民解放軍の兵士となりました。その 3 年後、ジャルさんはほかの少年兵 400 人とともに砂漠をさまよって内戦を逃れ、避難することができました。当時の様子を詩に綴ったジャルさんは、この体験が自分にどれだけの影響を与えたか



保健キャンプで子ども連れの母親と話すボランティアの医師。スリランカ、デルフト島にて。  
写真提供: Gehan de Alwis/Rotary Club of Colombo Regency

を語りました。「内戦を逃れる旅は、人生最悪の経験だったと思います。何度も怒りがこみ上げてきて、自分の家族や友達を殺した人々に仕返しをしたいと思いました。しかし私は人を許すことを学んだのです。これは簡単なことではありませんでしたが、「許し」こそが平和への道だと考えたのです」その後ジャルさんは、英国の救援隊員の助けを経て、ケニアへ渡りました。自分の経験を語り広めるには音楽が一番の方法だと考え、「GUA Africa」を設立して、紛争や貧困に苦しむ人々を助ける活動を始めました。

### チュラロンコーン大学

ジャルさんの講演に続いて、平和シンポジウムの分科会ではバンコクのチュラロンコーン大学におけるロータリー平和センターの成功について話し合われました。同センターでともに学んだフェローで、英国の平和活動家ベルさんと、オーストラリアの警察官アレンさんは、互いの共通点の多さに驚いたと話します。ベルさんは地元警察との話し合いが難航しており、警察官であるアレンさんの状況に関心を持っていました。深夜まで議論を重ねた二人は、最終的に多くの共通項を見出しました。「どちらも同じような取り組みをしていることが分かりました。地域社会、政府、非政府組織が手を取り合ってこそ、紛争解決の道を見つけられるのです」とアレンさん。二人は、チュラロンコーン大学のプログラムの終了後も連絡を取り合っています。ベルさんとアレンさんは、グレーター・ダンデノングに住むスーダン出身の青少年を対象にリーダーシップ・プログラムを設けました。この地域は、アレンさんの警察署がパトロールをする地域です。「この地域の子どもたちは希望や気力を失っていました。もっと積極的に地域社会に参加することで、現状を変えられるのだと彼らに実感してもらうことが目標でした」一方、ベルさんの地元マンチェスターでも、銃の不法所持に対する取締り対策を試みています。

ロータリーのプログラムで学んだ重要なことは、平和維持、平和構築、平和調停の違いを理解したことだと話すベルさん。「それぞれに異なる段階があり、さまざまな手法を紛争地域や都市部での対立などに適用できます。紛争や対立の解決について話し合うだけではなく、皆が協力して、成果を出す活動を実行する必要があります。こういった大切なことがロータリーを通じて学ぶことができました」

## ノーベル平和賞受賞者が講演し、 団結の力と無私の奉仕の必要性を強調

ノーベル平和賞受賞者、レイマ・ボウイさんがロータリー世界平和シンポジウムの閉会本会議で講演し、現在の世界的な課題に取り組むために力を結集するよう、ロータリー平和フェロー、ロータリアン、ロータリー財団学友に呼びかけました。ボウイさんは、戦争の被害者から平和活動家となった自身の個人的な体験を、次のように語りました。「私の役目は、意欲を必要としている人々に意欲を与え、励ましを必要としている人々に励ましを与えること、そして、現状満



足している人々には、立ち上がるよう訴えることです」2003年、ボウイさんは、さまざまな宗教や民族の女性たちを率いて、長引く悲惨なリベリア内戦の終結を実現させました。魚市場で戦争反対を祈り歌う女性たちを集めて「Women for Peace」を創設し、敵対勢力リーダーの妻たちには、夫が武器を置くまでセックスを拒絶するよう呼びかけました。さらに、このキャンペーンは、自由選挙で選ばれたアフリカ初の女性大統領、エレン・ジョンソン・サリーフ大統領の誕生へとつながりました。

### 奉仕は義務

女性への暴力が日常化しているアフリカ諸地域を回って活動する自身の体験について、ボウイさんは次のように語りました。「激しい抵抗や嫌悪の言葉を受けると想像していましたが、現地で実際に目にしたのは、女性たちの強さでした。女性たちは、悲しみを乗り越え、人生そして地域社会を立て直そうという勇気を持っていました。団結して行動することは、もはや自分たちにとって、単なる選択肢ではなく、生き方そのものであると、彼女たちは気付いたのです」

「ロータリアンと同じように、この女性たちは、人類への奉仕を、自分たちの義務だと感じています」とボウイさん。世界の多くの人々は奉仕の真の意味を理解していない、と話し、奉仕によって何が実現できるかを世界に理解してもらうために、ロータリアンと平和フェローが力を合わせることの必要性を強調しました。「個人主義の考え方では、今日の世界が抱える問題を解決することはできません。これらの問題は、団結の力を理解する人々が集団で取り組まなくてはなりません。問題を解決へと導けるのは、無私の心を持つ人々です。人々が予期せぬ創造的なアイデアが、ときに、素晴らしい変化をもたらすものです」

### 平和のために

ボウイさんの講演に、聴衆は立ち上がって拍手をしました。2003-05年度平和フェローとしてパリ政治学院に留学し、現在はリベリアのユニセフに勤務しているヨランダ・コワンさんは、ボウイさんが同国の女性たちに与えた影響を目の当たりにしたと言います。「リベリアでは、彼女は伝説的な存在です。彼女のメッセージは立ち上がる勇気を人々に与えてくれます」

シンポジウムでは、ロータリー財団のウィルフリッド・ウィルキンソン管理委員長エレクトが、平和構築の分野で活躍している平和フェローたちに感謝の意を述べ、今年で10周年を迎えるロータリー平和センター・プログラムの意義を高く評価しました。「ロータリーは、平和構築の人材を大勢輩出してきた」と管理委員長エレクト。「きれいな水、食糧、教育の提供など、戦争の根本的原因への取り組みは、長期的なものです。私たちが育成する優秀な人材の力で、平和はきっと実現できるでしょう」